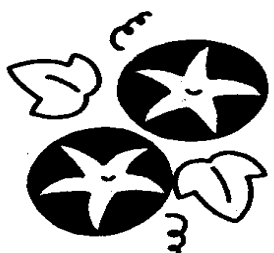


大通寺

発行 - 印刷
郵便番号 397-0001
本館 郡本町 4926
智勝山 大通寺
電話 0264-22-2550



**元気なうちに考えておこう。
突然、こんな事が私の身に降りかかってきたらどうしますか？**

私はこの五月で大通寺に住して三十年が過ぎました。

その間色々な出来事がありました。一番の苦しみは健康上の事でした。ついこの間も目を患い、信州大学病院に入院し手術を受けました。おかげさまで回復し普通の生活が出来るようになりましたが、目の見えない不自由さを体験し健康な身体の大切さを思い知りました。私の場合は毎日の不摂生がたたり今となっているのですが、同室の同じ年の人は健康で何の問題も持っていない人でしたが、やはり目が見えなくなり手術を受けたのですが、あまり芳しくなく途方に暮れる姿を見て慰めの言葉が見つからなかった。

私は度々の入院と病院通いの続く日々ですので、自分は健康な妻より先に逝くものだと思っと思っていますが、世の中そうばかりとも言えない。健康だからと言っても不健康な者より必ず長生きするとは限りません。明日の身は誰も分か

らないのが人生です。以下に紹介するのは、四月に最愛の奥様を突如亡くされた古瀬光弘さんが、古瀬さんの戦友の方の手記を私に届けて下さいました。古瀬さんも奥さんに対する愛の深さと毎日の生活を奥様に頼り切っておられたことがよく推察できます。

手記【皿洗いのススメ】

『私は家内に先立たれ、戸惑いの毎日を過ごしましたが、この頃は少し生活にリズムも生まれ、心にゆとりも出来ましたので、痛感している体験談の一つを披露し、老友の戯言として一文を草します。』

顧みますと私たちの年代は、死を見つめ、食べることに一杯の戦中を経て、戦後は楽しい時代を過ごさせて貰いました。だが戦前、戦後の教育を受け、敗戦と同時に総ての価値観が一変し、私は学生の三年間を坐禅・読経・掃除条件に禅寺に下宿しましたが、歴史・宗教・文明に人類の愚かさ・おぞましさを感じ、神や仏も人間の造作物で、聖書や教典の物語もフィクションに過ぎないと感じ、哲学の認識論や政治思想は嫌い、単純に科学の進化論を信じました。最近テレビでもやる様になりましたが、百四十億年前に、この宇宙が誕生し、電子・原子の粒子が離合集散して、中学で習った元素が生まれ、四十六億年前に地球が誕生し、彗星説もあります。が、無機物から有機物の生命が誕生、そのバクテリアから三葉虫・魚類・両生類・爬虫類となり、おなじDNAの人類が二十万年前に発生した進化の過程は、偶然が積み重なり長い時間をかけて進化したもので、物質や自然や生命の本質を教

えてくれたものでした。

そして人の生死は一瞬の出来事に過ぎず、妻との死別は一緒に死にたい程の苦しみでしたが、彼女の死を素直に受けられる事が出来、残された人生を其の日其の時を大切に前向きに生きて行く事に決め、偶然にもご先祖様や両親からの人間としての命を賜り、人生の喜びを与えてくれた妻との出会い、自然の恵みや友人・国家の恩恵に感謝し、もう一度宗教を勉強し、人生哲学・道徳観としての仏教に帰依する事になりました。毎朝妻の写真に向かって般若心経を唱える時が一番心が和み、一方巡礼で身を苛む事で心が浄化される様に思え、余生を感謝と供養の気持ちで、巡礼をすることにしました。この一年半、秩父三十四ヶ寺・板東三十三ヶ寺を周り終え、今年と来年は西国三十三ヶ寺を巡りたいと思っております。只今は、少しずつ趣味や散歩もする様になり、其の点仏教の教えに救われ、生きる気力を頂きました。般若心経の知恵と道元禅師の行の概念で、只管日常を過ごし、欲得も、競り合う心も、価値も意識もしない世捨人として、この世の合理的な限界の中で一過性の今を素直に静かに生きて行きたいと思っております。

私たちの時代には、国の為、社会の為に我武者羅に突き進んで、子供の養育は女房に任せきり、余り家を顧みなかった私でしたので、昭和六〇年に娘たちが結婚をし、夫婦二人だけになったのを機に、定年後の余暇と罪滅ぼしの意味から妻に頼んで、庭の手入れ・掃除・皿洗いを私の仕事にさせて貰いました。そしてその間海外旅行や国内旅行、山歩き等も一

緒にして、楽しい思い出をいっぱい残したのですが、皮肉なことに妻は肺がんの為、一年足らずの療養で他界してしまい、これから手を取り合って労りながら、ささやかに暮らして生きたい矢先でしたので、彼女の七十歳の死は如何にも早すぎた残念、可哀想で、自分の不甲斐なさを恨み、じっとして居ると感傷的になるので、音楽を絶ち、好きな趣味もする気になれず、己を見失って居りました。総てが虚しく、気力も沸かず、ただただ悲しんで居り、般若心経の色即是空を心底体感した次第です。

一人ポツンと家に取り残された私は、生きて行くとなると、途端に食事の問題に逢着し、時間が来れば必ず食事をしなければならぬ煩わしさに、生活のリズムは食事にある事に気づき、この努力と技の多様さに驚きました。毎日の事で、夫や子供の為に、栄養のあるもの、美味しく食べられるもの、そして美意識を考えて食を齎して呉れた努力に、今更の様に女房の有難味をひしひしと感じました。男尊になった私は、食事のメニューから戸惑い、コンビニヤ、外食に頼ると偏食になり、塩分摂取も多くなるので、妻が使っていた料理の本やノートを探し出して、ああでもない・こうでもないと感じ、い手つきで食事を作りましたが、さて食べる段になると一人の食事は何とも素っ気なく、一人とはこんなに侘びしいものかと痛感しました。ただ食器洗いをさせて貰ったお陰で、妻への細やかな奉仕が出来たと感じ、習い性と言いましょつか、今も皿洗いが苦にならず、無心に出てくる事が救いとなっております。この妻との死別の苦しい中で一つでも救われた

気持ちになれた事は、皿洗いをさせて貰ったお陰でした。毎日皿を洗いながらこれも仏教で言う行で、やっていて良かったなと感ずる昨今です。

老友の皆さん、どうか奥さんを大切にしてください。そして感謝の気持ちで皿洗いをさせて貰うことです。一人身になった時に必ず救われる気持ちになります。お互いに病の事など話し合う事が多くなりましたが、私は皆さんに心から皿洗いを勧めます次第です。』 後藤博（予科21・10）

愛情深き古瀬さんは、お二人とも御元気な頃より共に助け合い家事をされていたので今困ることなくとも、心のよりどころの無き寂しさは筆舌しがたいものがあるようです。

私も今三十年を振り返るとまさに自分本位で、妻は健康な人と決め込んでいました。修業時代は確かに身の回りのことを全部自分でしていました。この三十年間は……。妻に先立たれては困るのですが、困らないような心づもりと長く二人して生きられるよう努力しないといけないと考え直しました。

大通寺では私の後の住職を誰に託すか大いなる宿題でしたが、おかげさまで大通寺に来ても良いよと言ってくれる人が現れました。現在大通寺の弟子になる為の書類上の手続きをしています。修行生活も終えある寺で小僧生活を現在しており、私が元気なうちに早く大通寺に来てもらい、良き住職になれるよう実践教育をし、檀信徒の皆様の御了解がいただけるよう育てていきたいと考えています。皆様方にも温かい目

で見守っていただきますようお願いする次第です。

詳しくは正式な手続きを済ませから御報告させていただきますが、お盆前には大通寺に来てくれると思います。ぜひ、顔を合わす機会があれば気軽に声をかけて下さい。一日でも早く皆様の顔を覚え、一日でも早く木曾の人になってくれることを望んでいます。



蛙の里物語

蛙の里にはいろいろな種類の蛙が住んでいます。私たちアマガエルは少数派です。蛙の里も人間様の社会同様に蛙社会の問題を抱えています。昔はガマカエルが体の大きさにものを言わせて、カエルの里を専制的に牛耳ってきましたが、身体が大きさに頼って、私たち小さなアマガエルのことを疎かにしたために不人気となり、主導権を失ってしまいました。そんな経験から、人間社会に見習って民主的な蛙の里を築こうと努力してきました。やがて、人望いや蛙望のあるトノサマガエルのグループが政権をとり、その中から首長が選ばれて、おかげで昔に比べれば穏やかな里になったのでした。

しかし、トノサマガエルの首長にも問題がなかったわけではありません。名前のように誰もがトノサマ的な地位につきたくて、権力争いばかりに熱を入れ、弱い立場の蛙のことを忘れがちでした。また、蛙の里も環境が悪くなったり、周辺の里との争いも時々発生し、決して安心して暮らして行ける状態ではなかったからです。この間の選挙までは、私たちアマガエルの代表を、何とか里の首長に送り出そうと一生懸命やりましたが、多勢に無勢で毎回落選して夢を叶えることができませんでした。反省するに、アマガエルのことばかりにこだわり、蛙の里全体のことを考えていなかったため、他の蛙の皆さんから支持してもらえなかったからだと思います。ところが、アマガエルのリーダーの中でも人格、いや蛙格的にも立派で、リーダーの経験も深いアマガエルのアマ山君

が立候補したいと言いました。アマガエルグループとしては、候補者として彼以上の者は見当たりません。しかし、流石のアマ山君でもトノサマガエルグループなどの支持も得なければ勝ち目がありません。蛙の特技を生かして、わざと縞模様に変えたり、他の蛙グループの有力蛙の意見を採用すると公約したり、必死の選挙戦を戦いました。もちろん私たちアマガエル一派も、一度ぐらいは勝ちたいという思いで選挙戦を頑張っていました。折から選挙前の里には、永い間のトノサマガエルの首長に多少飽きが出てきましたので、意外にも僅差でアマ山君が勝ってしまいました。驚きましたが、私たちが喜んだのは当然です。

ところがそのアマ山君ですが、いざリーダーになっては見たものの所詮はアマガエルは少数派です。組織としての自力がありません。何とか他の蛙の皆さんの協力がないと里を治めてゆけません。時には体の色をいろいろに変えて皆の機嫌をとらなくてはなりません。そんなあんなで、自分がアマガエルであることもすっかり忘れて、トノサマガエルだけならともかくヒキガエルの主張にすら偏りがちになるような毎日です。いきおいアマガエルのグループからも非難めいた陰口もささやかれます。もともとアマガエルとして育ったアマ山君は、弱者の味方という信念を持って臨んだのですから、現実との狭間ですっかりノイローゼ気味になってしまい、アマガエルの長老に相談することにしました。さて皆さん、果たしてこの長老は何と応えたでしょうか。「体の色は変えても、心の中までは変えられない。」一席の

お粗末でした。

向日葵も夜中にそつと首戻す

仙道

俳句

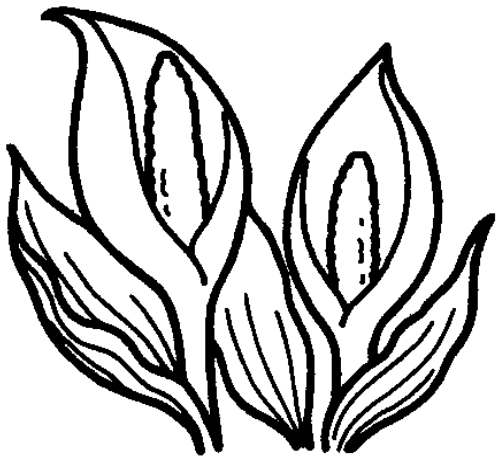
花冷えや友の旅立つ庫裡つとめ 節子
 野良仕事涼風共に寺の鐘 郁代
 箒からくるくる逃げる花吹雪 郁代
 施餓鬼会や山門くぐる家族づれ 郁代
 よみがえる馬宿小路夏兆す 郁代
 御嶽の風をもてなす夏座敷 たづる

お詫びと訂正

先号間違いがありましたお詫びして訂正させていただきます。

月透けて鴨尾より高し糸桜

たづる





「お盆って何？」

そう質問されて、困ってしまう事があります。勉強不足だからというのももちろんなのですが、お盆とは何かという問題は一口には言い表せない複雑な問題なので

まず、「お盆」という言葉、「お」は丁寧や尊敬を表す接頭語だからいいとして、「盆」とはいったいなんでしょう？

辞書には【孟蘭盆(うらばん)の略。孟蘭盆の前後数日の称。】とあります。なるほど、お中日のことを孟蘭盆といい、省略して盆という訳ですね。

じゃあ、孟蘭盆ってなんでしょう？

孟蘭盆とは、仏教の起源はインドですが、その古代語であるサンスクリット語の「ウランバナ」の音写語です。古くは「烏藍婆拏」「烏藍婆那」とも音写されました。つまり文字には特に意味はないわけです。音を写しただけですからね。

これはお経の中には度々見かける事です。みなさんご存じの般若心経の大半はサンスクリット語の経典から意味を写したのですが、最後の「揭帝」で始まる一説だけは音を写しているのです。読経を聞いていても何となく違いがわかりますよね。これは音の並びに秘密があって、最近では西欧の脳を研究している学者さんもお「おっ」と驚く秘密があるのです。

さて話は戻ってウランバナ。

これを意味で写すと「倒懸」つまり、さかさにかかる、となります。物騒な事になってきました。

皆さん、お盆の最中に逆さにかけられる風習なんて聞いた事ありませんよね？いやいや懸けられるのは皆さんではありません。ではその倒懸の物語を紹介していきます。

時は二千年前、場所はインド、仏教の開祖であるお釈迦様の内弟子の一人、目連尊者（もくれんそんじゃ）が主人公です。このモクレンさん、弟子の中でも神通第一といわれる実力を持っていました。過ぎたるは猶、及ばざるが如し。良く切れる刀は切ってみたくなるという通り、修行によつて得た神通力を使って、やめておけばいいのに亡くなった母を探してみました。すると、なんと亡き母は餓鬼道に堕ちて苦しんでいるではないですか。餓鬼道とは食べ物も食べられず、水も飲めない、とてもつらい苦しい世界です。得意の神通力で水や食べ物差し出しましたが、口

ため、アジアの東端の国で帰省ラッシュの元になるとは、モクレンさんの神通力でも分からなかったでしょうね。

【文玲】



お知らせ

四月以来病気のため、お休みさせていただいておりました住職の勉強会を、九月から再開させていただきます。どうぞ又お出掛け下さい。

予定 九月十六日土曜日午後七時より
大通寺本堂にて

に入る直前にことごとく炎となってしまう。なぜ餓鬼道に堕ちてしまったのかはさておき、苦しむ親を何とかしてやりたいのが子の人情。出家といえども人の子であるモクレンさん、師匠であるお釈迦様に相談しました。するとお釈迦様、「夏の修行が終わった七月十五日安居の日に修行僧を招き、多くの供物をささげて供養すれば、母親にもその施しの一端が口に入るだろう」と答えたそうです。ちよつと疑問ですね。「仏教の教えと矛盾してるんじゃない？」と思うでしょうが、仏教には対機説法と言つ言葉があります。母を思い修行に身が入らないモクレンさん。今で言う鬱にかかってしまっている状態でしょうか。おまじないのではありません。あつても何か形になる行動をさせる事で気持ちを前向きにする事を選択されたのではないのでしょうか。こうでなければいけないという思いこみも捨て去るのが仏教だとすれば、さすがお釈迦様という事にしておきましょう。さて、安居の日になり、モクレンさん、比丘のすべてに布施を行い、比丘たちは飲んだり食べたり踊ったり大喜びをした。すると、その喜びが餓鬼道に堕ちている者たちにも伝わり、母親の口にも入りました。そしてその時、功德により地獄での受苦を免れた亡者たちが、喜んで踊り、天に昇ったんだそうです。その状態を模したのが盆踊りなのです。

そして毎年、寺院で行われる、「施餓鬼」の行事、読んでは字のごとく、「餓鬼に施しをする」行事なのです。時代や国、いろいろ風習を経て、現在の形になっていったんですね。二千年後、その餓鬼供養のために皆揃って故郷に帰る



御施餓鬼会の法要は、亡くなられた御先祖様、お世話になつた知人や縁者の方々が、死後の世界で飢えや渇きに苦しむことのないように、願いを込めてお勤めをし供養をするのです。この法要を縁として、お互いが施しの心を養い、生きている喜びと先祖様への感謝の念を忘れない大切な行事です。皆様お揃いでこの供養にお出掛け下さい。

御施餓鬼法要は、皆様からの供養の申し込みにより卒塔婆などを準備しますので、都合上、八月十日までには申し込みを済ませられる

お盆前のお墓や寺の清掃予定

**お手伝いしていただけたらとても助かります。
 何卒よろしくお願いします。**

墓地清掃の日

第1回目 7月17日(月)午前9時より

通路など共同で使用する部分

第2回目 8月6日(日)午前9時より

各自の墓地をご家族で

大通寺内外の清掃の日

第1回目 7月26日(水)午前9時より

位牌堂・位牌拭き

第2回目 8月1日(火)午後1時より

座布団カバーの洗濯・窓拭き・畳拭き

(女性部の主催ですが、男性の方も御協力下さい。)

第3回目 8月10日(木)午前9時より

盆棚飾り付け